

■趣 旨

東日本大震災と津波によって甚大な被害を受けた岩手県沿岸部。震災から8年が経過し、この3月に被災したJR山田線が三陸鉄道に移管されてリアス線として復活するとともに、沿線の街の復興もかなり進捗してきた。今回は岩手県沿岸部の復興地区をBRTや三陸鉄道で巡りつつ、復興とまちづくりについて考える。

■行 程 (2019年7月6日~7日)

7/6 気仙沼駅 ⇒ 気仙沼市【魚町・南町地区、鹿折地区】⇒BRT⇒ 陸前高田市【高田地区】⇒BRT⇒ 大船渡市【大船渡駅周辺地区】 ◆大船渡駅周辺地区で懇親会及び宿泊

7/7 大船渡発 ⇒リアスホール⇒盛駅⇒三陸鉄道⇒ 大槌町【町方地区】⇒三陸鉄道⇒ 山田町【山田地区】⇒三陸鉄道+JR山田線⇒ 盛岡駅 解散

■参加者 上野 朋子、大竹 亮、重永 真理子、鈴木 丞治、藤井 正男、古里 実、水谷 晴子
〔コーディネーター〕栗原 徹

1. 気仙沼市震災復興【魚町・南町地区、鹿折地区】 A A A A B B B

A：魚町・南町地区は、堤防の高さを抑え、また堤防と一体となった交流施設「迎」を核に、海との関係を繋ぎつつ、市街地との連続性を保とうとする意思が明確だった。鹿折地区は災害公営住宅が地域のまちづくりの空間的なリード役になっていけばと思いました。

A：地権者のお店と災害公営住宅を組み合わせた共同化事業があちこちで取り組まれていて、復興事業への工夫が感じられる。堤防が他の復興地に比べ低く海が臨める場所も多く、また、レトロな街並みを活かそうという動きもあり好感がもてる。

A：堤防ができて空間計画を工夫して、海と町との関係を近く保っている。港の複合施設や店舗付きの共同住宅がヒューマンスケールで、手づくり感のある生活の場の復興という印象を受けた。

A：米屋、酒屋など伝統的な建物がいち早く復興しているところに、地元への強い思いを感じた。古い建物の復興と、海沿いの新しい建物の調和が良かった。

B：魚町・南町では、歴史的建築の再生や災害公営住宅を組合せた共同化事業、防潮堤と一体となった商業・公共施設が整備されるなど、復興まちづくりが着実に進捗している。

B：魅力的な商業施設がそここに観られ、活気が溢れている。堤防と施設が一体化した設計は秀逸と感じた。

B：平地が少なく、見上げると山！という立地を実感しました。記憶を引き継ぐ新しい建物、げた履きの地元商業等がつくられていたことが印象的でした。一方、内湾の水門の外は津波がくれば水につかるところと考えると少々怖さを感じました。



2. 陸前高田市震災復興【高田地区】 ABBBBBB

A：大規模な土木事業の力強さに圧倒された。

B：盛土の話ばかりがクローズアップされてきたが、実際の市街地の嵩上げが完成してみれば、そう特異に見えるわけではなく、思っていたよりも不自然さが感じられなかった。図書館と一体で整備された「アバッセたかた」の界隈が、バスターミナルや公共駐車場とともに、新？市街地のまちの中心を形成しつつあると感じた。

B：壮大な土盛りによる復興計画がようやく実現し、整然とした美しい町並みが出来ていた。駅舎、公共駐車場、公園、図書館、店舗が集中し、生活しやすそうな町が復興しつつあると感じられた。

B：9m以上のかさ上げを駅から西側の市街地全体で行ってしまうことにびっくりする。商店街も再生してきており、被災直後からの仮設店舗等、生業支援の成果を感じる。

B：中心市街地ほとんど全てを復興させる事業は、壮大な社会実験ともいえる。街が本当の意味で復興するには時間がかかると思われるが、長期的な視点で評価すべき。

B：ベルトコンベアを使った大規模な市街地の嵩上げを行っているが、その規模の大きさに圧倒された。被害に遭われた住民の方々の心情を考えると当然の結果とも思える

B：8～10メートルの嵩上げの大変さとスケールを実感しました。



3. 大船渡市震災復興【大船渡駅周辺地区】 AAAABBB

A：BRT大船渡駅、防災拠点施設、ファクトリー、フードビレッジ等の施設が集約した市街地を形成し、賑わいや居住が戻るための基礎ができていると感じた。気仙沼の魚町・南町もそうだが、被災市街地の奥行きが狭いほど、市街地の核や土地利用を明確にしやすいように感じた。

A：復興を機に新しい市街地形成を目指し、まちづくり会社の活動などによって、非常に速いペースで街の形が出来上がった。

A：かもめテラスの建物が、にぎわっていて良かった。キャッセン大船渡は簡易な建物の集合体であるが、賑わいと路地のような空間があり良かった。夜の食事は海の幸三昧で、とてもおいしかった。

A：かなり早期にまちづくりが始まり、現状でかなりの復興率となっていることが理解できた。BRTとの擦り付けも上手くマッチングしている

B：駅前に防災観光施設を配置し、ホテル、商業等の賑わい施設が計画的に創出されていた。大規模施設が中心だが、歩行者主体の親しみやすい空間なので、拠点性が高まることを期待したい。

B：駅前の防災観光交流センターの多くの高校生を見て、街が動いていると感じました。多くの人に利用され続け、街に活気がでると良いと思います。

B：キャッセン大船渡のまちづくり会社による店舗経営が元気な感じで良い。



4. リアスホール A A A B B B - C

A：荒削りで大胆な外観、迷路のような内部空間、複雑極まりない客席配置、個性的な素材感など、非常にユニークな建築。居心地の良い一角があちこちにあり、とても素晴らしい体験ができた。

A：新居千秋の出世作、これから由利本荘市文化交流館/カダーレ、新潟市秋葉区文化会館と続いてゆくスタートとなった施設

A：久しぶりに「建築の力」に圧倒された。施工の技術があってこそその建物であった。素晴らしい。

B：意欲的な建築物と感じた。ここも図書館併設で地域の活動にもよく使われており、機能を集約した良い事例と感じた。ただ、個人的にはリアスと言えども建築としてはちょっと重たい気が・・・。

B：建築としては非常に意欲的で面白い空間ができているが、公共建築としてはチョットやりすぎだと思う。

B-：新居千秋設計のコンクリート打ちっぱなしの造形美は迫力あり。合併特例債による公共事業と推察するがインシャルとランニングのコストが気になったので評価はB-。

C：建物はとっても楽しかったです。ただ、市にとっては、今後のメンテナンスが大きな負担となると思います。



5. 大槌町震災復興【町方地区】 A A A B B B B -

A：リアス線のユニークな駅舎を囲んで、駅前地区に小規模な災害公営住宅を分散配置している。商店街の再建や公共施設・図書館の整備とあいまって、町の再生の手ごたえをしっかりと感じた。

A：ここも「おしゃっち」や旧商店街の再生により、まちの中心を形成しようとする意思が明確である。まだ空閑地が多いが、今後時間をかけて市街地が成熟していけば良いのではと感じた。

A：ひょっこりひょうたん島の駅舎が印象的だった。屋根の形が面白い。展望台があるのも、町の象徴となっており、良かった。

B：木造の公共施設「おしゃっち」とその前の公園やカフェなど、とても居心地の良い空間ができている。

B：ひょうたん島の駅がとっても素敵でした。復興住宅が点在する街の構成がとても良かったです。ここでも湧き水から嵩上げスケールを実感しました。

B：駅舎と大槌町文化交流センター「おしゃっち」など、かわいい施設がみられた。また、住民の方々による震災前の市街地模型には感動を覚えた。

B-：区画整理事業の保留地の災害公営住宅が立ち並んでいるが、民間自力建設の建物が少ないこと、災害公営住宅もまだ入居していない住戸が多いのが気になった。



6. 山田町震災復興【山田地区】 A B B B B B B

A：震災復興の住宅は、どれもデザインが良く質が高いと思った。

B：商業施設、高台住宅、集合住宅など機能別に復興が進められ、それぞれしっかりと整備されている。機能分離によりやや賑わい感に乏しい印象はあるが、着実な復興の成果を見ることができた。

B：区画整理事業と防災集団移転促進事業の地区のビルトアップの違いが良くわかる。新設された9.7mの堤防の外にも業務地があるのは知らなかった。

B：駅前の中心市街地は商業施設などが比較的高密度に集積し、復興地区の中では最も街らしい雰囲気。



B：山を切った大造成の結果、地権者を考慮したきり残した山の擁壁、区画整理地区の境目の擁壁等、時間と場所が限られる中でも計画の難しさを感じました。

B：まちの構造や中心が理解しにくかったのが残念でした。被災面積が大きく、かつ海からの奥行が大きいと、気仙沼やキャッセンのような明確さを与えることが難しくなるのでしょうか・・・。

B：高台の上を利用した復興計画がよく纏まっていた。震災記念公園も良かった

7. JR大船渡線BRT AAAABBC

A：鉄道敷きをBRTの路線として活用するのは、良いアイデアだと思いました。また、駅前っぽい作りこみが可能で、アクティビティの核として、地域の利便性を高める効果を感じました。

A：鉄道と違って経路にフレキシビリティがあり、駅や車両のデザインも良い。維持管理の手間とコストを考えると、地方ではBRTの方が適していると思う。

A：当たり前かもしれませんが、線路跡を安全に走る仕組み（BRT側の踏切、1次退避場所等）がきちんとつくられていることに感心しました。

A：時間通りにバスが来るので、安心して利用できる。

B：被災鉄道を迅速に復旧した方法としては評価できるし、機能面でも十分に見えたが、今般リアス線が全通してみると、ここだけ鉄道がなく直通できないことが地域の将来にどう影響するか。

B：市街地は専用道路、郊外は国道利用という明快な棲み分けの割り切りが清々しい

C：「バス高速輸送システム」ということだが、専用バス道路でないところもあり、定時性に不安を感じた。



8. 三陸鉄道リアス線 AAAAAAB

A：多くの人に利用されていたし、新しい駅舎が町の中心としての顔を持ち始めているように思う。頑張って復旧復興した結果が出ているので、今後まちづくりと一体となった活用を期待したい。

A：岩手沿岸部の街を163kmにわたって繋ぎ、復興のシンボルとなっている。復旧に際して整備した大槌や陸中山田の駅もなかなか良い。

A：鉄道や鉄道駅は、やはり地域にとって中心を意識させる重要な施設だと、あらためて感じました。あまちゃんの影響かもしれませんが、手を振ってくれる人などを見ると、機能以上に大切なものがあると思いました。

A：海岸線が防潮堤となっている景色が衝撃でした。TV等では見ていたものの防潮堤の連続は衝撃でした。百聞は一見に如かずと思いました。

A：地元の人が、手を振ってくれるところに泣ける。黒字化に向けて頑張してほしい。

B：JR大船渡線BRTも含めて、三陸がつながった点は良かった。地形の制約からどうしてもトンネルが多くなる路線であるから、観光客向けに視界が開けるビューポイントももっと積極的に紹介したら良いように思う。

B：思ったより利用者が多かったと感じた。でも、盛岡や仙台との連絡がもう少し無いとこれ以上の利用拡大は難しいと感じた。



9. 特に印象に残った場所など

気仙沼内湾地区：レトロな建物が残る街を再生しようとする事例が生まれていることが良い。市街地から海が見える低めの堤防を災害危険区域の指定と組み合わせるなどして実現しているのかなと思った。

気仙沼の共同化建物：災害公営住宅による保留床の購入、優良建築物等整備事業による共同施設への補助、中小企業等グループ施設等補助、高齢者生活支援施設等整備事業、効果促進事業等を活用して、権利者やお店の負担が小さくなる工夫と官民連携による関係権利者の合意形成の成果に感心した。

迎&まち・ひと・しごと交流プラザ：防潮堤を感じさせないのがいい

気仙沼の商店街中庭：災害公営住宅と商店群が複合し、中庭を囲んでいる空間性がヒューマンな生活感を醸し出していた。ほかにも各住棟ごとに店舗との複合形態が工夫され、中心街に彩りをもたらしていた。

陸前高田の大規模盛り土による市街地再生：工事中のベルトコンベアによる大規模な盛り土工事を見たときには違和感があったが、現在の9mかさ上げされた市街地の復興商店街に違和感がないことに自分でも驚いた。

大船渡防災観光交流センター：ピロティでピアノが弾かれ、中では子供が遊んでいたり学生が勉強するなど、人々の営みを感じられる。

大船渡の街角ピアノ：駅前の防災観光交流センターのピロティにピアノが置かれメロディが聞こえてきた。施設内の自由エリアで高校生が勉強していた様子と合わせ、日常生活の質的な豊かさを感じた。

大船渡 BRT 駅付近、「おしゃっち」の旧市街模型、

ささき：おいしかったです！ありがとうございました！

鶴住居復興スタジアム：東京からかなり距離のある地で、ワールドカップが行われるのは、意義深い。多くの人が集合し、スタジアムが歓声に包まれる様子を想像したら、わくわくした。

おしゃっち：ホールや図書館など、木造の良さがよくわかる建築。

大槌の木造文化施設：駅前の小さな町の一角に木造のヒューマンな文化交流センターが出来ていた。ホール、図書館、展示コーナーいずれも居心地が良く、休憩スペースも多くて町民の集いの場となりそう。

山田駅の自由通路：ホームと駅前広場の間に駅舎と町民施設の2つの建物があり、その間の花咲く路地のような通路を抜けてホームへ行くのがとても楽しい。待合室の内部も温かみがあり非常に心地よい。

それぞれのお店のがんばり：「迎」の「ミナトノトウヤ」、キャッセンの「ささき」、陸中山田の「いっぷく」など、それぞれの店が工夫やおもてなしを考えていきいきとしていて、力強さを感じました。



10. 震災復興地区の今後に向けて

震災復興事業は概ね完成したが、復興のまちづくりはこれから。基盤整備ができて土地利用が決まらない宅地が多数ある状況で、まちを再生させるにはどうすれば良いと思うか。（自由意見）

◎人口減少が始まっている日本のなかで、地方を賑やかにするには、①1人の人が2ヶ所に住む2拠点居住の推進、さらには2カ所以上に関係する「関係人口」を増加させる、1人が分身して関わる方向と②外国から人を呼ぶ方向の2つしかないと思います。

①の促進をめざし、地道に地域の魅力を発信し続けることが遠回りに見えますが最善の道だと思います。

例えば、キャッセンのように箱ものを整備とあわせその運営による利益が街づくりに上手く回せる仕組みがすべての地区で必要ではないでしょうか。

◎今回歩いた地区の中では、まちの構造や中心が意識できるまちとそうでないまちがありました。店舗と図書館、交流施設等を併設するなど集約する工夫がありましたが、いつも賑わう場所を目指すというより、地域の人が「ここが私のまちの中心」と思えるような場所づくりが鍵ではないでしょうか。まだ空閑地は目立ちましたが、住民のまちへの愛着づくりと並行して、急ぐ必要もないのではと思いました。

◎生活の場は公共主導でおおむね再建されたように見えるが、働く場や地域の将来を作り出す場があまり目に入らなかった。外部企業を誘致しても、中心部で土地購入・建物整備して資金が回収できるかどうか厳しい面もあろう。

若者の起業支援や土地建物の暫定利用を行政が用意するなど、小さな動きを一步步進める地に着いた産業振興が必要ではないか。そこに地域資源の活用（山海の珍味など）や体験型の観光交流（リアス線活性化など）と連携できれば、さらに道は広がるだろう。

◎被災地の人口減少は著しく、観光によって外部からの交流人口を増やすしかない。被災地を巡って、東日本大震災の状況と復興のプロセスを体験し、三陸の美味しいものを味わうツアーを企画したらどうだろうか。

◎緊急に対応しなければならない住宅再建や生業の継続と時間のかかる基盤整備をつなげるデザインと官民の関係者の努力が必要だと思う。

◎初期費用を安くして、参入させやすくする。若い人が定着するような産業を呼び込む。

◎ベタではあるが、やはり産業の振興が必須と考える。若い世代の職場の確保。

11. 岩手のお土産

クロジカセンペイ：募金の気持ちで購入したが、美味しかった。

黒字化せんぺい：課題や気持ちが良く伝わってきます。

三陸鉄道の赤字せんぺいとクロジカせんぺい：経営再建をお土産にする商魂とユーモアに脱帽！

いかせんぺい：味わい深い味である。

牛乳瓶うに：おいしかったです！

うに松前：おいしかったです！

いちご煮

ベアレンビール：非常に美味しいビールだが、東京ではなかなか買えない。

ベアレンビール：風味がよくパッケージもおしゃれ。出色の地ビール。東京でも売ってほしい。

ベアレンビール

かもめの玉子：おいしくて一口で食べてしまった。大船渡駅前の展示販売施設もいいスペース。

かもめの玉子：私は美味しいと思うが、かみさんの評価は浦和の白鷺宝のほうが上とのことでした。

菓子工房エルマーノ（大槌町）の焼きドーナツ：とってもおいしかった。もっと買えばよかった。

タルトタタン：我が家で娘に大好評だった。ガトーショコラやブルーベリーパイも美味。

12. その他、今回の企画についての感想など

◎昨年の企画に続き、2日間で沿岸主要都市を巡り町の復興を見るという非常に充実した企画でした。いずれの都市も、基盤整備や住宅再建がほぼ終わり、一定の市街地復興がなされた様子で、日常生活の場として住宅・商業・文化ともに良質なものが整備されていました。また、対象地区の見学だけでなく、食事、休憩、宿泊、移動、そしてお土産購入などの過程でも、復興の状況を実体験することができました。食事とってもおいしかったし、リアス線やBRTの車窓風景も目を引く美しさでした。そして欧米都市で流行の「街角ピアノ」を日本で初めて見ることもできました。計画段階では、条件不利地域の復興にどれだけの将来性が生み出せるのか心配でしたが、今回訪問して非常に良質でヒューマンな生活空間が創出されているのを見て、今後の余剰地の土地利用によって町ごとの方向が出てくることを期待します。栗原さん、大変ありがとうございました。

◎1地区づくじっくり見れば時間が足りないし、今回の企画は移動距離の割には効率よく地域を見学することができ、極めて充実した2日間でした。こうやって多くの地区を比較しながら歩くと、課題や空間的な作り方、復興のプロセスを感じることができ、短い時間でしたが、自分の中にこれからの街づくりの課題や問題意識を再認識する良い機会となりました。BRTの開通の意味や三陸地域を幅広く熟知した栗原さんだからこそ可能になった企画と思います。ありがとうございました。

◎津波の破壊力の大きさに、あらためて気づかされました。どの町にも大きな防潮堤があり、海との共存の難しさを感じました。BRT、三鉄の開通、各種復興事業など、人の復興への営みをたくさん見ることが出来、大変有意義でし

た。ただこれらをさらに発展させていくのは、人口が少ない地域だけに大変だろうなと感じました。貴重な機会をいただき、ご案内いただきありがとうございました。

◎全線開通したばかりの JR 東日本の BRT と三陸鉄道リアス線を活用して、気仙沼から山田、宮古まで、被災地を見て回るととてもタイムリーな企画でした。栗原さん、有難うございました。三陸沿岸の被災地のビルトアップや基盤整備の違いと共通点などを知ることができてとても良かったです。復興のあり方を学べる貴重な機会になりました。感謝です。

◎モリモリの企画にも関わらず、ゆったりとした時間の中で見学させていただきました。栗原さんの企画の賜物と思います。ありがとうございました。

ほんとに「百聞は一見に如かず」を実感し続けた 2 日間でした。

【コーディネーターより】東日本大震災から 8 年経過し、震災の記憶も徐々に薄れてきています。しかし、本当の復興はこれからであり、基盤整備ができた街において被災者の方々の生活がどうなるのが課題です。今回の TEKU・TEKU では、これらの被災地を訪ね、復興の状況を体験し、街のこれからも含めて、皆さんに考えていただきたいと思い企画しました。皆さん、ご協力ありがとうございました。これからも復興を応援していただければ幸いです。